

中学校武道必修化にあたり、武道の何を学ぶか—古武道指導の立場から

広島県立宮島工業高等学校 森本邦生

I. はじめに

『中学校武道必修化にあたり、武道の何を学ぶか』というテーマを古武道の立場から論じるのは難しいことである。なぜならば、日本古武道協会や日本古武道振興会という古武道の団体はあるものの、古武道という語に対して明確な定義が与えられておらず、現代武道の剣道や柔道、あるいは現代武道としての居合道のように組織による統一した価値観や考え方が存在しないため、それぞれの流派によってその価値観・考え方は異なり「何を学ぶか」はそれぞれの流派の中でどのように考えるかという事にしかなりえないからである。

したがって、本論は、古武道である無雙神傳英信流抜刀兵法、澁川一流柔術、大石神影流劔術の修行と指導を通じての私論である。

II. 私の武道歴

本論を展開するにあたって、私が修行し指導している流派について簡単に紹介したい。

無雙神傳英信流^{いあい}抜刀兵法は土佐藩でおこなわれていた居合の流派で、細川義昌から香川の植田平太郎を経て伝えられた現代居合道化していない居合であり、中山博通が創めた夢想神伝流とは異なる流派である。

澁川一流柔術は江戸時代後期、広島で首藤藏之進が渋川流と難波一甫流・浅山一伝流から開いた流派であり、主に農村地帯で稽古が行なわれた流派である。



大石神影流劔術は柳河藩の大石進が開いた劔術であり、突技と胴切りを特徴としている。

私は以上の 3 流派の古武道を指導しているが、私がかつて幹部自衛官として航空自衛隊に奉職していた経歴上、現代武道である銃剣道・

短剣道も稽古しており、論を進めるにあたって古武道と現代武道の比較も視野に入れている。銃剣道は江戸後期に高島秋帆によるオランダの砲術の研究に伴って取り入れられ、日本化が始まった現代武道である。



III. 古武道の特徴

長久手合戦屏風図に見られるように戦場では火縄銃や弓、槍、長刀、太刀・刀などを用いての戦闘や短刀を用いての組打などが同時並行的におこなわれており、銃は銃に対し、槍は槍に対し、剣は剣に対するという競技的状況は存在しない。したがって、古武道の 1 つ目の特徴は学際的事であることと言える。

古武道においては劔術、柔術、槍術等の区分はあってもその流派の中に他の種目の技を含む事が多い。

無雙神傳英信流抜刀兵法、澁川一流柔術、大石神影流劔術の形目録を示し、上記を確認したい。

無雙神傳英信流抜刀兵法には現在以下のような形のグループが存在する。各形のグループとその本数を記し、所謂単独で行なう居合以外の形のグループは太字にして下線を付した。

大森流 11 本	英信流表 10 本	英信流
奥 20 本	太刀打 10 本	詰合 10 本
大小詰 8 本	大小立詰 7 本	

太刀打は劔術の形、詰合はいわゆる居合と劔術との中間的な形、大小詰・大小立詰は柔術の形であり、半分以上の形のグループが一人で行なう居合以外の形で構成されている。

澁川一流柔術には以下のような形のグループが存在する。各形のグループとその本数を記し、お互いに素手で行なう形以外の形のグループは太字にして下線を付した。

履形 35 本	吉掛 25 本	込入 37 本	打
込 24 本	両懐剣 4 本	互棒 7 本	四
留 14 本	拳匪 7 本	杵型 9 本	引違 5
本 袖捕 2 本	二重突 14 本	一重突	
12 本	片胸側 11 本	壁沿 12 本	傘被
12 本	上抱 14 本	裏襟 7 本	御膳捕
10 本	御膳捕打込 11 本	鯉口 10 本	
居合 16 本	肱入 22 本	三尺棒 25 本	
三尺棒御膳捕 2 本	六尺棒 8 本	六尺	
棒裏棒 8 本	六尺棒引尻棒 2 本	刀と	
棒 14 本	小棒 14 本	十手 3 本	分
童 3 本	鎖鎌 11 本	居合(抜刀術) 18	本

太字で下線を付した形は相手が短刀や刀などの武器を用い、こちらが素手や棒、十手などを用いる形で、一般的な「柔術は素手と素手で戦うもの」というイメージはあてはまらない。

大石神影流剣術には以下のような手数(大石神影流では形を手数という)のグループが存在する。各手数のグループとその本数を記し、刀と刀の手数以外の手数のグループは太字にして下線を付した。

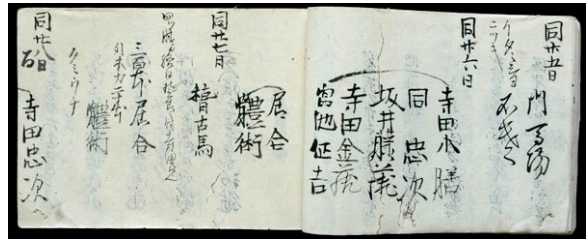
試合口 5 本	表 10 本(陽之巻)	陽之裏
10 本	三學圓之太刀 9 本	鎗合 2 本
長刀合 2 本	棒合 3 本	鞘ノ内 5 本
二刀 5 本	天狗抄 10 本	小太刀 5 本
神傳截相 1 3 本		

太字で下線を付した手数は相手が槍を用いたり、こちらが棒や長刀を用いたり、居合で対処する形であり、刀に対処することのみを考えてはいない。

次に示すのは土佐藩の片岡健吉(1844~1903)の安政6年(1859)2月の稽古記録である。片岡健吉は明治維新後は自由民権運動に身を投じ、のちに衆議院議長を務めている。安政6年には片岡健吉は数えで16歳である。

この年2月26日には寺田小膳、寺田忠次ほか3名と大石神影流の稽古を行い、同じ日に下村茂市のもとで無雙神傳英信流抜刀兵法・高木流體術の稽古を行っている。27日には馬術の稽古を行い、さらに無雙神傳英信流抜刀兵法・

高木流體術の稽古を行っており、複数の武術を同時に学ぶ様子が見える。



古武道の2つ目の特徴としては、江戸時代あるいはそれ以前に作られた形・礼法を有しており、現代でもその形や礼法を流派の基本として稽古を行う事があげられる。これは現代における古武道の最も特徴的な点である。



古武道の3つ目の特徴としては、その流派に代々の知識の蓄積が弟子へと伝えられることがあげられる。古武道は師から弟子へと伝えられ、師の許しを受けなければそれを伝える事ができないため、流派の全伝を得たものが指導をなしている。

IV. 結論

古武道は競技としてではなく命のかかる場で用いるために編み出されたものであり、学ぶ範囲は学際的であり1種目に固定されることはない。

また、古武道は形の稽古を基本とするため、流派が作られた時代の形や礼法を基本としており、その当時の人たちが稽古したことを形や礼法を通じて稽古している。

さらに、師から弟子へと連綿として伝えられてきた歴史を有している。

以上の特徴から古武道を通じて学ぶことができるものは以下の三点であると考えられる。

1. その時代に生きた人の生き残るための技と心を学ぶ。
2. その時代に生きた人の生き残るための知恵を学ぶ。

3. その時代に生きた人の武術の歴史を学ぶ。